

令和2年度 輪之内町立仁木小学校 自己評価書

学校の教育目標	<b>ひろい心をもち 豊かに表現できる子</b>
経営の重点	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の教育目標の具現に徹する学校経営</li> <li>一人一人のよさを引き出し、生かし、伸ばす意図的・継続的な指導・支援の推進</li> <li>①学級経営（心身のケア） ②学習指導（学びの担保） ③安全教育（3密回避等） ④道徳教育 ⑤家庭・地域との連携 ⑥働き方改革</li> <li>「ひたむきに取り組む姿を徹底して褒める」</li> </ul>

評価基準 A(3ポイント):実践し、効果をあげることができた。  
 B(2ポイント):実践し、一応の効果をあげることができた。  
 C(1ポイント):実践し、僅かだが効果をあげることができた。  
 D(0ポイント):実践したが、効果をあげることができなかった。

町の重点	評価の窓	教員評価ポイント	評価	2学期までの成果	来年度以降の課題と改善策
【学校経営】 全教職員が協力して活力ある学校経営をする。	勤務の適正化と教職員が健康でやりがいをもてる経営	77.1	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ対策を中心に教職員の意見を集約して方法等の共通理解を図り、共通行動ができた。</li> <li>日課の見直しを図ることで、教材研究や事務処理の時間を確保し負担軽減につなげた。</li> <li>日程や日課表を工夫し、勤務時間内に会議や研修を行うようにできた。</li> <li>担任以外の先生が、空き時間を有効利用して、休み時間の児童の指導や、体温チェックなどのいろいろな校内の仕事を積極的にやってくんだり、担任の残業時間が大幅に減った。</li> <li>行事の内容を見直し、実態にあうように改善された。</li> <li>できるだけ残業時間がないように努力している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最新情報を提供し、コロナ対策の徹底を図る。</li> <li>日直体制にする。</li> <li>全員が年休を順番に取る工夫をする。</li> <li>職員会の司会を教務が担当する。</li> <li>働き方改革について進める。</li> </ul>
【研修】 自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける。	学校教育目標実現に向けて資質向上を図り、組織的・継続的な研修の実施	64.6	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>打ち合わせ後の時間を活用し、職員研修を実施できた。</li> <li>校内研修会はなかなか行うことができなかったが、新しく入った機器やタブレットの研修や授業のVRによる提案などコロナ禍の中でもできることを工夫して行うことができた。</li> <li>終礼での研修や児童交流で、いじめや問題行動について考えることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンラインやビデオ等を活用し、研修をできる範囲で進める。</li> <li>研推からの具体的な授業の提案を早い時期に行う。</li> <li>研究では、具体的にどこを仁木小の強みにするのか明確に示す。</li> <li>研究の流れや仁木小の授業のパターンが分かりやすいように、以前の指導案等を示す。</li> </ul>
【教科指導】 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する。	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	62.5	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動制限が多い中でも工夫をした学習活動ができた。</li> <li>6年の授業提供があり、録画を通して研修することができた。</li> <li>コロナの影響で、対話的な学びの場の代わりに演習等、技能の習得のために時間をとった。</li> <li>相手を意識させ説明することを中心に指導した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何をすればよいのか職員が明確に意識できるよう、共通理解する場を設定する必要がある。</li> <li>感染防止対策を行いながら、交流の場を位置づけていく。最低限の教材の準備で大きな効果(児童の力)になるような工夫をする。</li> <li>コロナの場合は対話的な活動は難しいため、習熟を図るためのだてなどの研究などに切り替えていく。</li> </ul>
【道徳教育】 自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる。	生き方についての考えを深める特別の教科道徳の充実	72.9	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひびきあい週間の活動を中心に思いやり心を育んだ。資料をもとに、主人公の行動などから自分の普段の生活を見つめる時間を毎週もつことができた。</li> <li>道徳の授業を通して、誰かのために頑張ることについて考え、普段の生活の中でも思いやる行動が見られた。毎週、道徳を行い、子どもたち実践力のある方向へ育てることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>適時、担当から放送を通じて啓発する。</li> </ul>
【外国語教育】 外国語に慣れ親しみ、コミュニケーション能力を高める。	主体的にコミュニケーションを図る姿が具現される指導方法等の工夫	75.6	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>町の非常勤講師によって確実に実施されている。高学年には専科の先生がつき、楽しく学べるための指導の工夫をされていた。</li> <li>コミュニケーションを図る姿が見られた。児童は、英語のゲーム活動に意欲的に参加している。</li> <li>ALTの先生の話から、異国との文化の違いを感じることができた。</li> <li>英語の歌を歌うなど、楽しく学ぶ機会が多かった。ALTの先生の言葉を聴くことで正しい発音を身につけられている。苦手意識をもたせない工夫を感じられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟のために、繰り返しを重視した学習をする。</li> </ul>
【総合的な学習の時間】 探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質・能力を育てる。	「ふるさと輪之内」に学ぶ態度と輪之内を愛し誇りに思う心を育成する探究活動の充実	66.7	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動内容は縮小されたが、3年生の社会科、ごまんど祭り、4年生の環境学習、5年生の米づくりの実施は、地域への愛着を抱かせる内容であった。各学年が工夫し地域人材を活用した授業を計画できていた。</li> <li>校外学習ができなかった分、講師を招いたり資料から読み取ったりする学習を行うことができた。</li> <li>給食食材に輪之内町の食材が使われ、ふるさとを感じる経験ができていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見学は難しいため、外部講師を招いたり、DVDなど見て分かる教材を用意していく。</li> </ul>
【特別活動】 所属感を高め、よりよい生活や望ましい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	望ましい人間関係や学級集団としてのまとまりを育てる学級経営の充実(QU検査の活用)	70.8	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生方の働きかけや助言により、子どもが主体となる活動が増えてきた。</li> <li>QUを実施し、結果をもとに学級経営を行っている。</li> <li>日頃から、仲間のよさに気づき認め合う機会をもつことで、お互いに理解し、協力しようという態度を育てている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>QUの結果をもとにクラスでの取り組みを考えていく。</li> </ul>
【生徒指導】 共感的な児童生徒理解に徹し、よりよい人間関係の形成を図り、自己指導能力を育てる。	児童生徒理解の深化を図り、教職員と児童生徒との信頼関係の構築	75.0	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート、教育相談だけでなく日常の会話や観察から子どもの変化を捉え、適切に対応できた。</li> <li>なかまアンケートの実施後、教育相談を実施することで、児童理解や、不登校・問題行動等の未然防止につながっている。</li> <li>密を回避した運動の提案や仁木輪ビックの計画・運営、体育委員による遊びの紹介により、楽しみながら運動を行うことができた。</li> <li>全校一斉での避難訓練はできなかったが、シェイクアウト訓練を行い、防災意識を高めることができた。</li> <li>感染症対策について、児童にも分かりやすいように指導し、日常的に意識できるようにした。</li> <li>給食は、感染症予防に努めながら、配膳ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートの実施回数を再度検討していく。</li> </ul>
【キャリア教育】 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育てる。	勤労観・職業観を育成する体験活動の位置づけと事前・事後指導の充実	60.0	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>徐々に係活動や学級での取組が実施されるようになってきた。</li> <li>様々な活動が制限される中、米作りでは地域の方や保護者に協力してもらい、稲刈りや脱穀を体験することができた。</li> <li>将来性のある話や、社会や理科、道徳で職業意識を高めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアパスポートのできるページは確実にを行い、次の学年へ引き継ぐ。</li> </ul>
【健康安全教育】 運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を営む態度を育てる。	自ら命を守りきる防災意識を向上させるための指導方法や指導体制の工夫改善	75.0	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康面、安全面から子どもと職員を守り切るための取組ができた。</li> <li>新型コロナウイルスの対応で朝・夜の検温や手洗いの徹底、登校時の消毒等をし意識が高まった。</li> <li>密を回避した運動の提案や仁木輪ビックの計画・運営、体育委員による遊びの紹介により、楽しみながら運動を行うことができた。</li> <li>全校一斉での避難訓練はできなかったが、シェイクアウト訓練を行い、防災意識を高めることができた。</li> <li>感染症対策について、児童にも分かりやすいように指導し、日常的に意識できるようにした。</li> <li>給食は、感染症予防に努めながら、配膳ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常の検温についてメールや学校便り等で、啓発活動をする。</li> <li>命を守る訓練・不審者対応訓練を継続的・計画的に位置づける。</li> <li>食に関する指導をコロナ禍の中でも積極的にすすめる。</li> </ul>
【特別支援教育】 一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる。	特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制づくりと合理的配慮の構築	68.8	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導教諭を中心に困り感の解消のための取組ができた。</li> <li>通級指導教室や指導教諭の助言により配慮児童には支援の先生をつけるなどしている。</li> <li>適正就学への指導の引き継ぎが分かる文書を残すことができるようになった。</li> <li>密を回避した運動の提案や仁木輪ビックの計画・運営、体育委員による遊びの紹介により、楽しみながら運動を行うことができた。</li> <li>要配慮児童への関わり方や困り感について担任だけでなく共通理解をして、いろいろな職員で関わることができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通常学級内の特別に支援を要する子どもの対応について、さらに細やかに進めていく。</li> <li>生徒指導記録等に確実に残し引き継ぎをしていく。</li> </ul>
【人権教育】 自他の大切さを認め、互いに人権を尊重する望ましい人間関係を醸成する。	児童生徒と全教職員が一体となったいじめや差別を許さない学校・学級づくり	79.2	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>集中的な取組だけでなく、日頃から小さなトラブルを早期に対応することで人間関係をぎくしゃくしたものにならないようにできた。</li> <li>ぼかぼか宣言を掲げ、中間振り返りをし意識を高めた。また、各学級ごとに人権について考えることができた。主任の先生の話の聞いたり、子ども達の感想をお昼の放送で流したりすることができた。</li> <li>生徒指導交流を行い、問題が起こった場合は全教員で情報共有し指導にあたっている。</li> <li>ひびきあいの取り組みやよいこと見つけなど他を認めるような活動を進めている。人権担当からのコロナハラスメントやいじめについての働きかけがあり、差別は許さないという意識を高めた。</li> <li>終礼での研修や児童交流で、いじめや問題行動について考えることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひびきあい集会について、年間を通して(学期1回程度)取り組みを計画的にすすめる。</li> </ul>
【ICT教育】 児童生徒の情報モラルを高め、情報社会に対応できる情報活用能力を育てる。	ICTを有効活用した学習活動の充実	83.3	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習用具の一部としてタブレット端末を積極的に活用するなど成果が上がりつつある。情報モラルに関しても適時、指導をしたり、保護者へ啓発したりしている。</li> <li>担任が進んで活用している。6年生は、リモート学習を進めることができた。</li> <li>タブレットを活用して調べ学習をしたり、動画撮影、プレゼン資料を作成したり、学年に応じた活用ができた。</li> <li>プログラミングの研修の場をもつことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨時休業となった場合に備え、オンライン授業ができるように準備を進める。</li> <li>スマホを持っている児童が多いので、今以上に情報モラルの指導の徹底が必要である。</li> <li>児童用タブレットの授業での活用の仕方について、さらに工夫改善を考えていく必要がある。</li> </ul>

<学校関係者評価>

- 最大限のコロナ対策が徹底して実践されている。おかげで子どもに陽性者が出ていない。新年度も引き続きお願いしたい。
- コロナの影響で校内での交流や外部講師を招くこと、学校外へ出かけることが減っている。何とか工夫してほしい。
- 子どもたちのあいさつの状況がよろしくない。見守り隊の一環でどどん声をかけていきたい。
- 新年度は見守り隊の会議を開き、独立した組織としての歩み出しをしていきたい。